

「東京都看護協会に期待すること」アンケート結果概要

I 概要

1 経緯・目的

東京都看護協会の協会事業および公益活動等、サービスについて、東京都に就労、在住の看護職の意見・要望を把握し、協会事業のあり方や支援方法を検討することを目的にアンケート調査を実施した。

2 実施方法及び対象

東京都看護協会員および非会員を対象とし、Google フォームを用いた無記名オンライン質問紙調査を実施した。会員約 43,000 名に定期発行物とともに研究説明文書等を送付した。非会員には、当会の実施する研修等の参加者を通して回答の協力を依頼した。

3 実施期間

令和4年10月1日～10月31日

4 調査内容

属性、東京都看護協会との関わりと要望、キャリアデザインなど

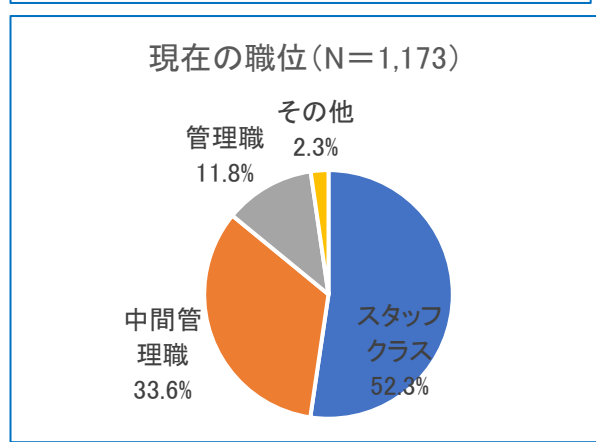
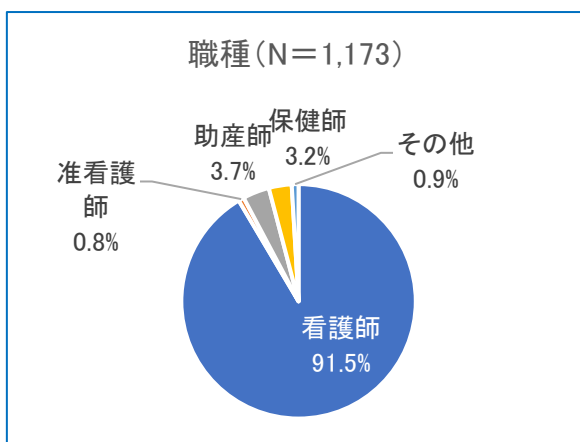
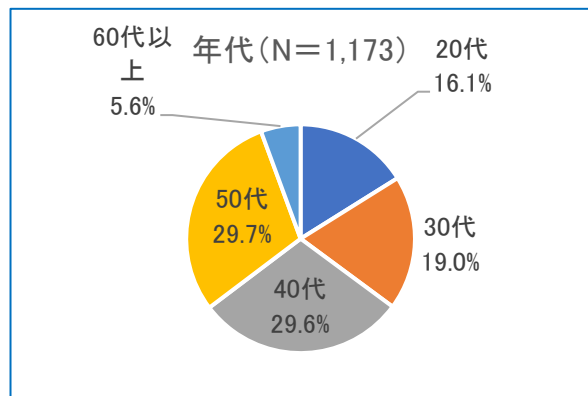
II 調査結果

1 回答 回答数 1,173 人 内会員 928 人 (会員の回答率 2.2%)

2 回答者の属性

○回答者年代 50歳代 29.7%、
40歳代 29.6%、
30歳代 19.0%
20歳代 16.1%
60歳以上 5.6%

○職位 スタッフクラス 52.8%、
中間管理職 33.6%、
管理職 11.8%
その他 2.3%

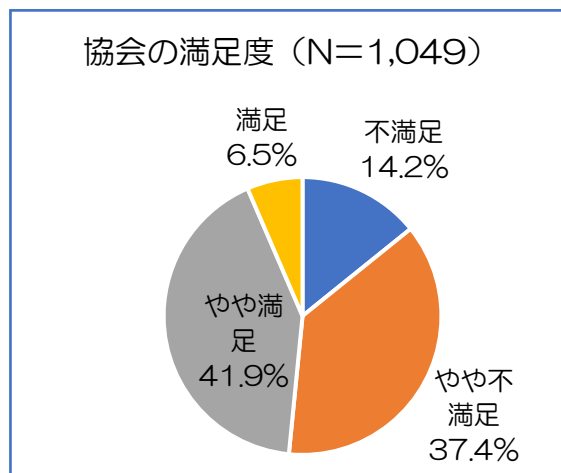
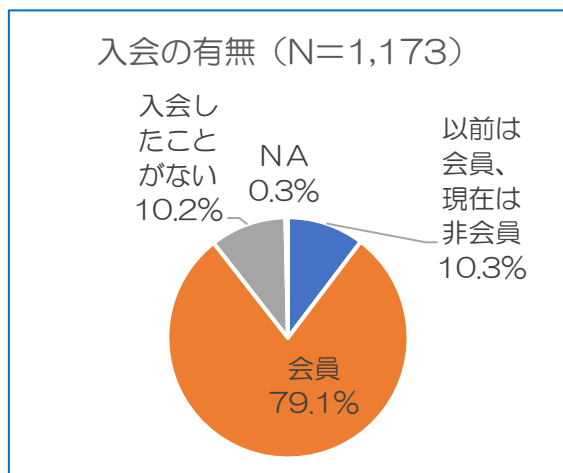


3 看護協会について

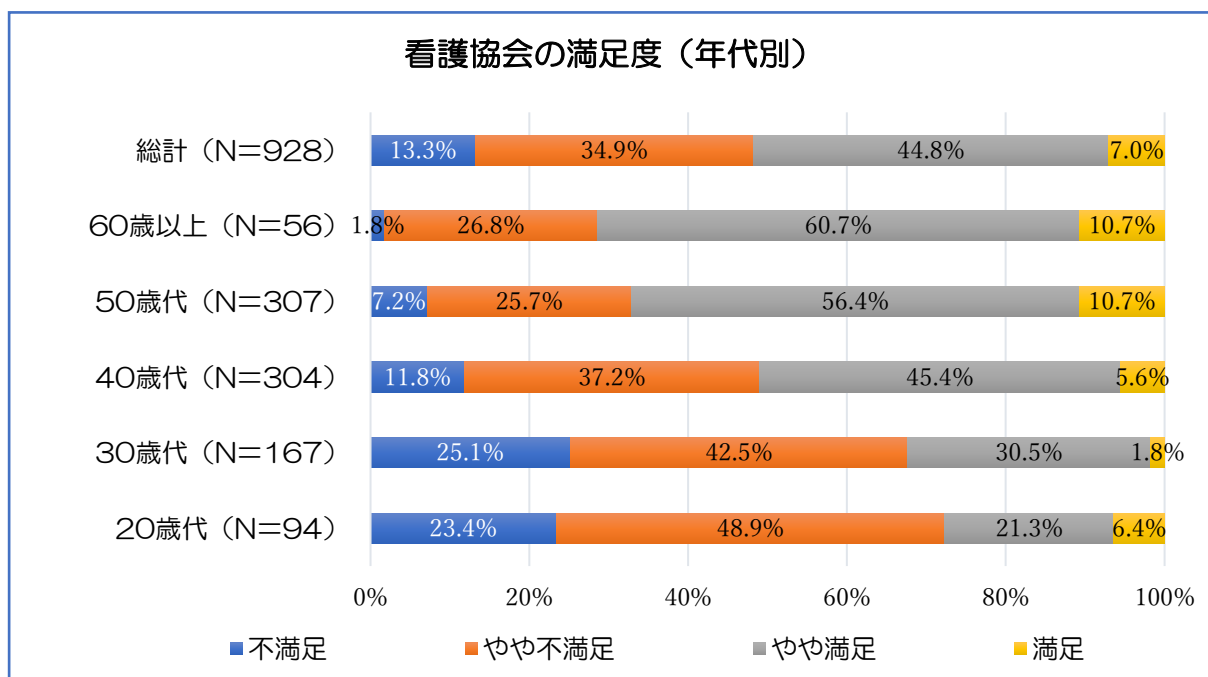
(1) 入会状況、満足度

回答者の79.1%が会員、現在非会員10.3%、入会歴なし10.2%である。

現在会員の928人の看護協会に対する満足度は、満足とやや満足は48.4%、不満足とやや不満足は51.6%である。



会員の満足度を年代別に見ると、年代が高いほど満足度が高い。20歳代においては、会員の7割以上が不満足・やや不満足を選択している。



(2) 入会・再入会の理由（複数回答）

現在会員である928人の入会・再入会の理由は、「職場での紹介・すすめ」556人（59.9%）、「研修を受けられる」554人（59.7%）、「必要な情報が得られる」412人（44.4%）、「賠償保険に入れる」232人（25.0%）、「学会発表・参加の機会がある」161人（17.3%）である。

入会・再入会の理由	人	%
職場での紹介・すすめ	556	59.9%
研修を受けられる	554	59.7%
必要な情報が得られる	412	44.4%
賠償保険に入れる	232	25.0%
学会発表・参加の機会がある	161	17.3%
他施設の看護職との交流：情報交換やネットワークづくりができる	77	8.3%
メディアセンター(図書室)が利用できる	66	7.1%
就職支援を受けられる	36	3.9%
学校での紹介・すすめ	29	3.1%
災害支援ナースになりたい	24	2.6%
外国語会話研修・国際交流事業がある	19	2.0%
なんとなく	98	10.6%
総計	928	—

(3) 看護協会事業の周知状況（複数回答）

看護協会事業で知っているものは、「認定看護管理者教育課程」775人（66.1%）、「実務実践研修（臨床研修）」648人（55.2%）、「実務実践研修（マネジメント）」506人（43.1%）、「診療報酬加算に関わる研修」473人（40.3%）、「看護人材定着関連研修」472人（40.2%）、「再就職／就業支援関連研修」620人（52.9%）、「無料職業紹介・相談窓口」474人（40.4%）、「災害支援ナース育成・派遣事業」481人（41.0%）である。「国・東京都等に対する看護政策要望」は292人（24.9%）であった。

看護協会事業で知っているもの（複数回答）	人	%
認定看護管理者教育課程（ファースト・セカンド・サードレベル）	775	66.1%
実務実践研修（臨床看護）	648	55.2%
再就職／就業支援関連研修	620	52.9%
実務実践研修（マネジメント）	506	43.1%
災害支援ナース育成・派遣事業	481	41.0%
診療報酬加算に関わる研修（認知症／看護補助者／フットケア等）	473	40.3%
無料職業紹介・相談窓口	474	40.4%
看護人材定着関連研修（新人職員向け、助産師定着促進、看護職キャリアアップ等）	472	40.2%
看護研究学会、看護学生研究学会	441	37.6%
メディアセンター（図書室）・文献サービス	436	37.2%

地域包括ケア関連研修（訪問看護人材育成、入退院時連携強化等）	347	29.6%
都民向け事業（看護フェスタ、まちの保健室、プレファミリー講座等）	347	29.6%
外国語会話研修	352	30.0%
国・東京都等に対する看護政策要望	292	24.9%
訪問看護ステーション運営	209	17.8%
国際交流事業	204	17.4%
すべて知らない	138	11.8%
総計	1173	—

看護協会事業について「全て知らない」と回答したのは全体では13.8%である。年代別で見ると20歳代41.8%、30歳代15.2%、40歳代3.2%、50歳代3.7%、60歳代以上1.5%である。

「全て知らない」と回答	人	%
20歳代（N=189）	79	41.8%
30歳代（N=223）	34	15.2%
40歳代（N=347）	11	3.2%
50歳代（N=348）	13	3.7%
60代歳以上（N=66）	1	1.5%
総計（N=1173）	138	11.8%

（4）参加したことのある事業（複数回答）

看護協会事業で参加したことのある事業は、「実務実践研修（臨床看護）」377人（32.1%）、「診療報酬加算に関わる研修」204人（17.4%）「認定看護管理者教育課程」191人（16.3%）「実務実践研修（マネジメント）」171人（14.6%）、続いて「メディアセンター（図書室）・文献サービス」で163人（13.9%）である。

看護協会事業で参加したことのある事業（複数回答）	人	%
実務実践研修（臨床看護）	377	32.1%
診療報酬加算に関わる研修（認知症／看護補助者／フットケア等）	204	17.4%
認定看護管理者教育課程（ファースト・セカンド・サードレベル）	191	16.3%
実務実践研修（マネジメント）	171	14.6%
メディアセンター（図書室）・文献サービス	163	13.9%
看護研究学会、看護学生研究学会	128	10.9%
看護人材定着関連研修 （新人職員向け、助産師定着促進、看護職キャリアアップ等）	111	9.5%
都民向け事業 （看護フェスタ、まちの保健室、プレファミリー講座等）	83	7.1%
無料職業紹介・相談窓口	74	6.3%
地域包括ケア関連研修（訪問看護人材育成、入退院時連携強化等）	68	5.8%

災害支援ナース育成・派遣事業	60	5.1%
再就職／就業支援関連研修	47	4.0%
外国語会話研修	47	4.0%
国・東京都等に対する看護政策要望	13	1.1%
国際交流事業	5	0.4%
参加したことがない	425	36.2%
総計	1173	—

看護協会の事業に「参加したことがない」と回答したのは、全体では425（36.2%）であるが、年代別で見ると、20歳代80.4%、30歳代48.0%、40歳代28.5%、50歳代17.2%、60歳以上は10.6%である。

「参加したことがない」と回答	人	%
20歳代 (N=189)	152	80.4%
30歳代 (N=223)	107	48.0%
40歳代 (N=347)	99	28.5%
50歳代 (N=348)	60	17.2%
60歳以上 (N=66)	7	10.6%
総計 (N=1173)	425	36.2%

(5) 東京都看護協会への要望について（複数回答）

東京都看護協会への要望は、下表のとおりである。「看護職の状況やニーズに合った研修をしてほしい」600（51.2%）、「もっとオンライン・オンデマンドなどを増やしてほしい」546（46.5%）といった意見が多く、各年代とも高い。

研修の開催日・時間帯検討に対する要望、WebやSNSを活用した情報発信についての要望も多い。

「現場の改善につながる国や東京都への看護政策要望をしてほしい」は、50歳代・30歳代の3割以上が選択している。

「看護の現状や課題を調査・研究してほしい」を選択したのは全体では21.3%であるが、年代が高くなるほど高く、60歳以上の年代では28.8%である。

表 年代別東京都看護協会への要望（複数回答）

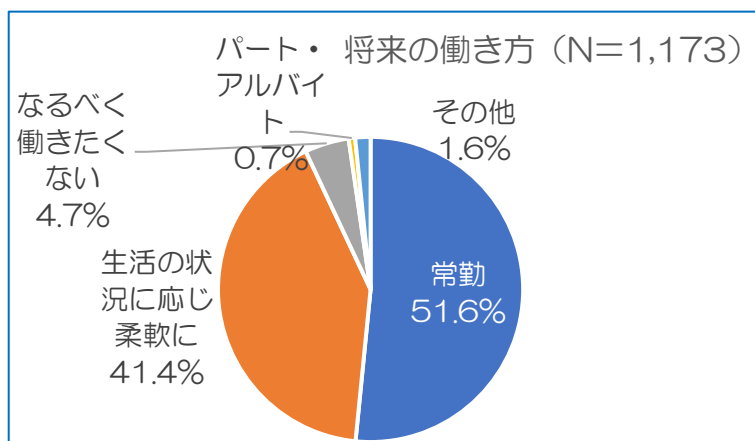
	20代 N=189	30代 N=223	40代 N=347	50代 N=348	60～ N=66	総計 N=1173
看護職の状況やニーズに合った研修をしてほしい	44.4%	54.3%	50.1%	51.1%	65.2%	51.2%
オンライン・オンデマンド研修などの開催増	27.5%	48.0%	52.4%	51.1%	40.9%	46.5%
開催曜日・時間を検討してほしい	8.5%	24.2%	24.8%	23.3%	25.8%	21.7%
出前研修をしてほしい	1.6%	10.3%	16.4%	18.4%	16.7%	13.5%
入会手続きや振込方法を簡便に	17.5%	15.2%	9.2%	14.1%	15.2%	13.5%
研修申し込みや振込方法を簡便に	10.1%	15.2%	16.1%	18.1%	19.7%	15.8%

職員の対応について	10.1%	6.7%	4.6%	6.3%	4.5%	6.4%
現場の改善につながる国や東京都への看護政策要望をしてほしい	20.1%	30.9%	24.5%	33.6%	27.3%	27.9%
看看連携などネットワーク、会員交流の機会を増やしてほしい	2.6%	6.7%	10.1%	13.8%	19.7%	9.9%
看護の現状や課題を調査・研究してほしい	17.5%	18.4%	19.0%	26.1%	28.8%	21.3%
紙面での広報を増やしてほしい	2.6%	0.9%	1.7%	2.3%	1.5%	1.9%
Web や SNS を活用してもっと情報発信してほしい	18.0%	17.0%	19.9%	25.3%	25.8%	21.0%
その他	7.4%	16.6%	15.6%	18.7%	15.2%	15.3%

4 キャリアデザイン

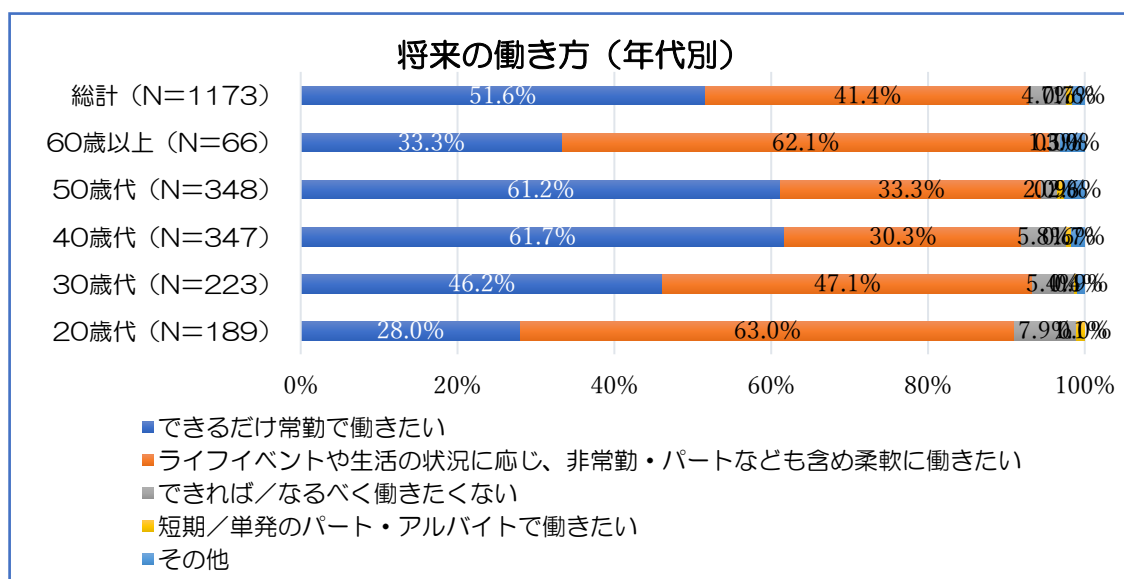
(1) 将来的な働き方の希望

将来的な働き方の希望は、「できるだけ常勤で働きたい」51.6%、次に「ライフイベントや生活の状況に応じ、非常勤パートなどを含め柔軟に働きたい」が41.4%である。



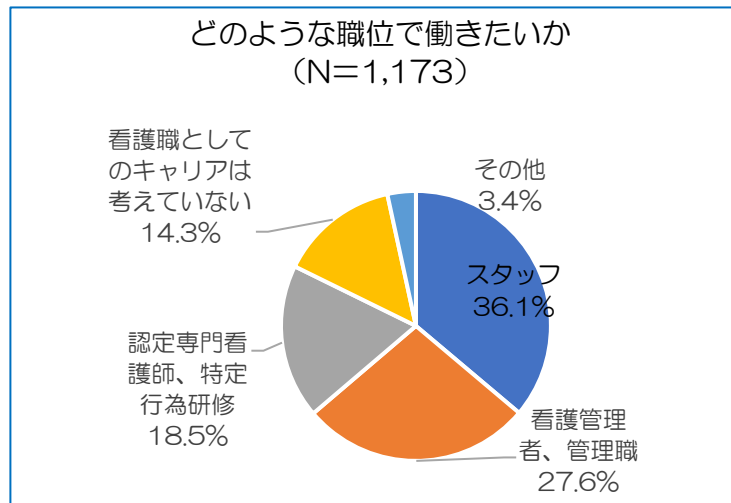
将来的な働き方の希望を年代別にみると、「できるだけ常勤で働きたい」は40歳代61.7%、50歳代61.2%であるが、20歳代は28.0%である。

一方、「ライフイベントや生活の状況に応じ、非常勤パートなどを含め柔軟に働きたい」は、20歳代は63.0%、60歳以上が62.1%である。

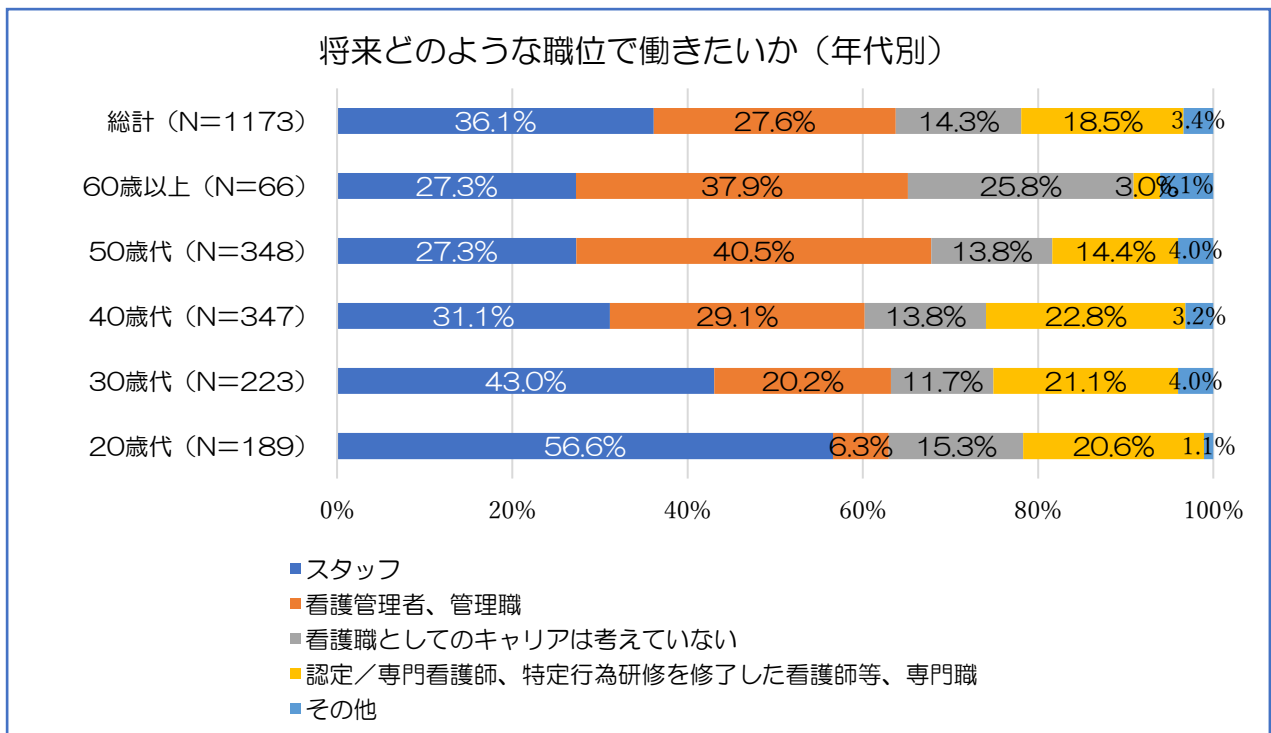


(2) 看護職としてどのような職位で働きたいか

将来どのような職位で働きたいかについては、「スタッフ」36.1%、続いて「看護管理者、管理職」が27.6%である。「看護職のキャリアは考えていない」という回答が14.3%である。



将来希望する職位を年代別でみると、「スタッフ」は20歳代56.6%、30歳代で43.0%である。「看護管理者、管理職」は50歳代が40.5%、次に60歳以上で37.9%であり、20歳代は6.3%である。



Ⅲ 年代別の特徴

(1) 20 歳代

看護協会の事業を知らない、事業に参加していない割合が他の年代に比べ高い。20 歳代の 8 割が協会事業を利用しておらず、看護協会に対する満足度についても 7 割が満足していない。

キャリアデザインについて、将来の働き方では「できるだけ常勤で働きたい」を選択した 20 歳代は 28.0%、「ライフイベントや生活の状況に応じ、非常勤パートなどを含め柔軟に働きたい」は 63.0%である。

将来の職位について、「スタッフとして働きたい」を選択したのは 20 歳代 56.6%、「看護管理者・師長」を選択したのは 6.3%である。

看護協会への要望では看護職の状況やニーズに合った研修をしてほしい、オンライン・オンデマンドなどを増やしてほしい要望があり、自由記載では、入会しても活用できていないといった意見がある。

(2) 30 歳代

看護協会事業に参加したことの割合が 20 歳代に次いで高く、5 割が参加していない。看護協会に対する満足度については、20 歳代に次いで低く 7 割が満足していない。

キャリアデザインについて、将来の働き方では「できるだけ常勤で働きたい」を選択したのは 20 歳代と 60 歳代に次いで低く、「ライフイベントや生活の状況に応じ、非常勤パートなどを含め柔軟に働きたい」は 20 歳代と 60 歳代に次いで高く 47.1%である。

将来の職位について、「スタッフとして働きたい」を選択したのは 20 歳代に次いで高く、「看護管理者・師長」を選択したのは 20 歳代に次いで低い。

キャリア実現のために協会に希望する支援について、「育児・介護支援」が最も高い。

キャリアアップ自由記載では、これからのキャリアアップを考える意見と、子育てとの両立についての意見がある。

(3) 40 歳代・50 歳代

看護協会事業に参加したことの割合は低く、看護協会に対する満足度は高い。

東京都看護協会への要望では、「現場の改善につながる国や東京都への看護政策要望をしてほしい」「看看連携などネットワーク、会員交流の機会を増やしてほしい」「看護の現状や課題を調査・研究してほしい」といった要望の割合が高くなる。

40 歳代の自由記載では、職場全体を見渡した意見や、協会に入会するメリットを見えるようにしてほしいといった要望が増える。

50 歳代の自由記載では、離職防止や職員の定着に関する意見や、看護職の地位の向上、キャリアアップ等、看護職全体を見渡した意見が増える。